

## 領域 12 インフォーマルミーティング議事録

日時：2025 年 9 月 18 日（木）12:30-13:30

場所：広島大学 SK209 会場

司会：山口毅

書記：森義治

### 1. 領域運営体制の確認

現在の運営体制について以下の通り確認があった。

領域代表	山口毅（名大）	任期 2025 年 4 月-2026 年 3 月
領域副代表	藤崎弘士（日本医科大）	任期 2025 年 4 月-2026 年 3 月
次期領域副代表	野口博司（東大）	任期 2025 年 4 月-2026 年 3 月

領域運営委員

任期 ソフトマター 化学物理 生物物理

2024 年 10 月-2025 年 9 月 横田宏(都立大) 森義治(九大) 江端宏之(阪大)

2025 年 4 月-2026 年 3 月 武仲能子(産総研) 末松安由美(西日本工大) 井上雅世(九工大)

2025 年 10 月-2026 年 9 月 佐久間由香(東北大) 笠原健人(阪大) 大村拓也(北大)

(敬称略、以下同様)

### 2. 次期領域副代表について

次期領域副代表について以下の案が承認された。

秋山良（九大） 任期 2026 年 4 月-2027 年 3 月

### 3. 次期領域運営委員について

次期領域運営委員について以下の案が承認された。

ソフトマター 小西隆士（京大）

化学物理 中村有花（新潟大）

生物物理 光元亨汰（東大）

任期はいずれも 2026 年 4 月～2027 年 3 月。

### 4. 春季大会におけるシンポジウム・招待講演等の提案

以下の点について報告がなされた。

- ・春季大会におけるシンポジウムについて

現在のところ提案はなし。提案がある場合には、山口領域代表に連絡をする。その後、各

分野におけるメーリングリストで承認手続きを行う。

- ・招待講演等の提案について  
同上。

## 5. 領域委員会報告

以下の点について報告・説明がなされた。

- ・領域 12 主催の 2 件のシンポジウムが承認されたことについて  
すでに開催されたことが報告された。
- ・領域 Web ページの日英併記の推奨について  
領域 12 では対応済みであることが報告された。
- ・現地ポスターセッションの開催方法について  
今大会から変更があり、午前・午後の 2 部制で行っていることが報告された。
- ・2026 年以降のオンライン開催時のポスターセッションのあり方について  
次回の春季大会から実施方法が変更予定であることの報告がなされた。変更後は Zoom で  
のショートプレゼンの実施後、個々のブレイクアウトルームで議論・質疑応答を行う。

## 6. 学会本部からの案内・意見収集

以下の点について案内がなされた。

- ・80 周年記念国際シンポジウム開催の案内について  
学会本部から連絡があったことが報告された。領域が開催するシンポジウムと日程・時間  
が重ならないようにすることが確認された。
- ・領域のあり方と現状の課題に関する情報収集について  
標記の問い合わせについて報告がされた。それぞれの領域の規模は同程度になるように  
編成されたが、現状そうではなくなってきた領域が存在することを背景としている。当領域  
は規模的に領域の運営について問題が生じることには至っていない。  
領域 12 としては、特段の問題は生じていないと回答することが提案された（ただしメー  
リングリストの問題と関連して意見が付された。下記 9 参照）。

## 意見

領域 12 は 3 分野で構成されているが、やや分野間の構成に偏りが出始めているかもしれ  
ない。バランスが崩れると該当する分野の運営委員が出にくくなってくることがありうる。

## 7. 若手奨励賞について

以下の点について報告・説明・審議がなされた。

- ・ C. N. Yang 賞推薦規定の変更について (審議事項)

規定の変更について説明があり審議された。

変更後においては男女 1 名ずつ推薦できる場合には 2 名を上限として推薦できるようにすることが提案され、審議の結果承認された。

- ・ 若手奨励賞について

若手奨励賞の審査経過が野口審査委員長から報告された。

9 名の応募があり、書類審査を行い、3 名の候補を選出した。またその中の 1 名を Yang 賞候補として推薦した。

- ・ 若手奨励賞応募要項の改訂について

若手奨励賞応募要項の修正が行われ、その内容が報告された。

## 8. 学生優秀発表賞について

以下の点について説明がなされた。

- ・ 実施方法の変更について

春のインフォーマルミーティングで提案されたように、今大会から実施方法を変更したことが報告された。特に問題なく運用がされていたことが確認された。

Google form での申し込みについて具体的な運用方法の説明がなされた。Google form での運用は手続き不備をなくすために導入された。今回は大会申込と Google form 申込の両申込みをしなかった学生もいくらかおり、その場合は個別に連絡をすることで対応を行なった。次回以降の改善点とする。

### 質問・意見

物理学会における大会申込み時において学生賞チェック欄があるのはなぜか。そちらの方を不要とすることはできないか。

→ そちらの方を原則的な学生賞の申込とする領域もあるためだろうと考えられる。例えば大会申込時にチェックするところに領域ごとの注意の文言を入れることも考えられる。

大会申込時に学生賞のチェックを入れていなくても審査してもらえるのか。

→ 少数ながら該当する学生はいた。今回は確認のメールを送付したうえでチェックをしてもらい、失格にはしなかった。

Google form での申し込みが重要なのか。

→ Google form の方で必要な情報を集めているので、そちらでの申し込みが重要である。

・学生賞セッションについて

学生賞セッションの創設についての背景・目的について説明がなされた。

今回の問題点としては、学会本来の機能に反する、合同セッションに申込みない、連続講演の希望に応じられないなどがあった。

### 質問・意見

従来までは個別の分野セッションで学生賞候補の学生を審査していたのか？学生賞セッションにすることにより、セッション内の内容が広くなりすぎてしまわないか。一方で、今回の方法を採用したのであれば、この先も続けた方がよいかもしれない。

→ 従来は対象の学生を個別に審査していた。ソフトマターと生物物理については複数の学生賞セッションとなったため、それぞれのセッション内でできるだけ近い分野に分けた。また、運営としても今回採用した方法を続けていく方針である。

今回の方針で続けていくのであれば、学生賞の対象となる発表数を絞った方がよいのではないか。そのことで既存の問題も解決できるのではないか。

→ 発表者を絞るためにどのような方法で絞るかについての方針がまとまっていない。Google form を活用して必要な情報を記入してもらいつつ、これからの方針を検討していく。

合同セッションに申込みないとはどのような意味か。

→ 学生賞セッションで発表になると、基本的に他の領域との合同セッションにできない。しかし、他の領域との合意があれば学生賞セッションの中で一部合同セッションにできるかもしれない。希望があったら次の大会で考慮する。

・応募者の絞り込みについて

標記の件について説明がなされた。

同一研究室から多くの発表を出したことが有利になってしまうなど、公平性に疑問が生じる場合がある。また絞り込みの基準を設けた方がよいとの意見がある。

・審査基準について

学生優秀発表賞の審査基準について説明がなされた。

現状「概要」「発表・質疑応答」「内容の新規性」の3項目である。

(追記：学生賞の審査項目は、2018年に定められた受賞規定により定められている。

受賞規定：<http://www.r12.div.jps.or.jp/GakuseiShoKitei.pdf>)

### 質問・意見

審査基準はいつ作られたのか。また、発表そのものについての評価が大きくなってしまい、研究内容やその質についての評価のウェイトが小さくなってしまわないか。例えば応募者を絞るためにプレプリントや論文アクセプトなどを考慮したらどうか。

→ 審査基準は領域 Web ページで公開されている（上記の追記参照）。賞の趣旨は学生の研究を促すためのものである。また、論文などの項目については引き続き検討していく。

対象の学生が行なった研究かどうかが分かりにくい発表が多い。当該学生が研究のどこに貢献したか明示するようにした方がよいのではないか。

→ 質疑応答で評価可能。貢献を明示するように促すこともできるかもしれない。

## **9. 領域の広報・連絡体制について**

以下の点について報告・説明がなされた。

・領域 12 の X アカウントの開設について

活用方針・利用方法などについて説明がなされた。

・BPML の運用が停止されていること及びその対応案について

生物物理関係のメーリングリストである BPML の現状について説明がなされた。

現状としては BPML に新しいメンバーを追加できない。メーリングリストの運営をできる方を募集している。BPML は今年度 3 月まで利用可能。

### 質問・意見

領域 12 内の 3 分野についてまとめられないか。内容が領域の中で重複していることがある。領域 12 からの連絡用のメーリングリストを作るのはどうか。

→ 領域 12 としてという形を取ることができるかは分からない。X や領域 HP を利用すれば領域 12 関連の情報を受け取ることが可能である。新しいメーリングリストを立ち上げた場合は維持・管理をどのように行うかが課題となる。

ソフトマター ML、CPML、BPML では領域 12 と無関係の利用者がいるため、本当は領域 12 専用のものを作った方がいいのかもしれない。無関係の利用者に領域 12 の内容を流していることはよいのか。審議事項もメーリングリストに流れてしまう。

→ 無関係の内容のものでもそれが領域 12 の宣伝になってくれていればよいのではないか。また実際上、領域ごとでメンバー登録をしているわけではないので「領域 12 のメンバー」というものが決まっているわけではない。

物理学会の方で根本的に解決してもらえないのか。

→ 支部についてはメーリングリストがある。

現状、領域 12 で発表した人を特定のメーリングリストに入れるなどの制度はない。

領域に登録する制度を設けて、連絡を取り合うことを可能にするようにできればよいなどの意見があったことを「領域のあり方」に対する意見として回答する。

(追記：年次大会終了後に本部に問い合わせたところ、Web サーバの付帯サービスとしての ML サービスを紹介して頂いた。利用の可否や運営体制について、領域内で検討することとした。)

## 10. その他（キーワード変更など）

特に議題なしとなった。